

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 39

2023年5月23日

こどもの日記念シンポジウム 2023 に参加して

4月23日に広島市青少年センターで開催されたこどもの日記念シンポジウム（広島弁護士会主催）に参加しました。

コロナで対面開催ができなかったのですが、久々の対面開催でした。

今回のテーマは、子どもの意見表明権。劇団ピピオが担当する第一部では、「マイボイス～その思いが届くとき」という題名の演劇を行いました。

演劇は、オムニバス方式で、子ども達が、様々な場面で、大人や周りの人に気を遣ったり、自分の気持ちを言えない場面が描かれました。高校生の演技が迫真で、「言いたくても言えない」気持ちが伝わり、胸が締め付けられるようでした。

最後のシーンで、我々大人が、子ども達の声を聞こうと、必死に子どもたちにマイクを向けるシーンが描かれます。これも非常に胸アツのシーンですが、子どもの声を聴くことは簡単ではなくて、大人が、一生懸命「聞かせて」という態度を保つことが、大切だと感じました。

第二部は、福岡でアドボケイトの活動に関わる安孫子健輔弁護士、アドボケイトの朝日さん、家庭裁判所で手続代理人として活動している広島弁護士会の半澤茜弁護士が登壇して意見交換をしました。福岡では、里親家庭にいる子どもたちや、施設の子どもの意見をアドボケイトが聞く活動が実際に行われているようです。アドボケイトを入れ、施設側の子どもの権利に関する見識を高めることで、日常的に子どもたちが意見を言

いやしくなるという実態も教えていただきました。

ピピオ子どもセンターがかかわっている子ども達に接するときも、我が子についても、子どもの声を、しっかりと聴ける大人でありたいと思います。

理事 寺西 環江



「わたしの命は助かって、わたしのこころはどうなるの。」

あるとき、子どもに尋ねられた言葉です。

命の安全が脅かされる環境に子どもがいる場合、その子どもの命を守るためには、その場所から保護する。「子どもの最善の利益」（子どもの権利条約3条）を貫けば、そうなります。しかし、子どもたちは、身体の安全と引き換えに、大切なものを失っています。

「友達と一緒に学校に通いたかったのに。家だって、みんなが言うほど悪い場所じゃない。」

ピピオでも、子どもの気持ちとは異なる退居先を探さざるをえないことは、少なからずあります。子どもの第一希望をどんなに調整しても叶えてあげられないとき、せめてできることは、子どもたちが自分の気持ちをちゃんと出してもらおうよう支援することでは、と思います。その気持ちを、きちんと受け止めることではないかと思ひます。もっと言えば、1人ぐらい完全に子どもの味方に

なって、「納得できない」「理不尽だ」という思いに「そうだ！ そうだ！」と加勢してもいいんじゃないかと思うのです。

胸の中にあるもやもやしているものを、どんな言葉にしていいいか分からない子もいるかもしれません。そのときは、その気持ちに名前がつけられるように一緒に考えて、気持ちを言葉にし、身体の外に出す手伝いをしてあげられたらと思います。こうした、子どもの気持ちを子ども自身に「見える化」し、その子の外に吐き出させてあげてのお手伝いも、「アドボカシー」の一つだと思います。

ピピオで自分の気持ちを整理して、次の生活の場へと前を向いて巣立っていけるよう、その子の気持ちに寄り添ってかたちにしていく、そんなささやかな取組をこれからも大事にしていきたいと思ひます。引き続きのご理解とご支援を、よろしくお願ひいたします。

理事 平谷 優子

第13回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月7日から7月12日にかけて第13回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにご協力をいただいています。

ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全6講）を受講していただくこととしていきますので、ご希望の方はピピオ子どもセンター事務局にお電話（082-221-9563、平日午前10時～午後6時）でお知らせください。（募

集案内はホームページにも掲載しています。）

この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけるとともに、現在のボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的としています。

皆様の応募をお待ちしております。

ピピオ子どもセンター事務局

■第13回 NPO法人ピピオ子どもセンター ボランティアスタッフ養成講座 予定表■

by スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）

	日程	時間	テーマ	講師
第1講	6月7日 (水)	18時 ～20時	ガイダンス及び子ども担当体験報告	鶴野一郎理事長 大島礼香弁護士
第2講	6月14日 (水)	18時 ～20時	子どもの権利とそれにまつわる法制度について	平谷優子理事

第3講	6月21日 (水)	18時 ～20時	社会的養護の子どもたちについて	社会福祉法人広島修道院 児童養護施設広島修道院 院長 山村拓哉氏
第4講	6月29日 (木)	18時 ～20時	発達障害と愛着障害について	医療法人翠星会松田病院 精神科児童精神科 医師 洲浜裕典氏
第5講	7月5日 (水)	18時 ～20時	性被害経験のある子どもとの関わり方について	性被害ワンストップセンターひろしま コーディネータ 宇野しのぶ氏
第6講	7月12日 (水)	18時 ～20時	ピピオの家・はばたけ荘ってどんなところ？+ボランティア交流会	ピピオの家スタッフ はばたけ荘スタッフ

【会場】 広島弁護士会館：広島市中区上八丁堀2番73号

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのOです。

「ピピオの家」スタッフの3人は、半年くらい前から〈子どもアドボカシー〉について、本やネット、講演等で学んでいるところです。

前号の『ひなぼと』で川崎弁護士が取り上げられ、先日開催されたこどもの日シンポジウム2023でも、劇や座談会のテーマとなっていたので、耳になじんでいる方も増えていると思います。

私が、〈子どもアドボカシー〉に注目したのは、入居者のAさんの存在があります。

Aさんは、幼いころから家庭環境が不安定で、家と施設を行き来する生活でした。入居前は家で生活していましたが、問題が起これば、家での生活はAさんにとって不適切と判断されて、ピピオの家に来ました。Aさんは、入居当初から家に帰りたいとはっきり言っていました。状況から見て大人側の意見は、施設入所ということで変わりませんでした。

Aさんは「家に帰りたい。もう大人の都合であちこち行かされるのは嫌だ！わたしの人生は、わたしが決める！」と何度も何度も訴えていました。Aさんに関わる大人たちは、彼女の気持ちは理解しつつも、現実問題として方針を変えることはできず、平行線のまま・・・Aさんとしたら、一人で闘っている気持ちだったかもしれません。

Aさんは、諦めずに自分の思いを表し続けました。時々不安定になりながらも、ピピオの中で好きなこと、得意なことを見つけて取り組む

日々でした。

大人たちは、しばしば彼女の拒絶に合いながら、できる限り彼女の言動に寄り添い、協力し合って対応を模索し続けました。

最終的には、Aさんは、年度替わりに自分で決めたギリギリの日程で、施設へと旅立っていきました。そこでの生活になじんで、元気でやっていると聞いています。

Aさんは、当初の希望は叶えられなくても、悩みつつ現実を引き受け、前に進みました。関わる大人たちは、彼女のパワーに引きずられるように、へとへとになりながらそれぞれの立場、役割で力を合わせ、一緒に長い坂道を登っていく感じでした。

「自分の人生を自分で決められないのはおかしい。」というAさんのストレートな声は、ずっと心に残っています。

〈子どもアドボカシー〉は、子どもの権利条約の中の「子どもの意見表明権」を守り、促進していくために重要な役割を持っています。

意見表明というと、声高に訴えるようなイメージがありますが、子どもたちの心の声の表し方は様々です。

先程のAさん：思いを書き綴っていたノートを夜中にそっとスタッフルームの前に置き、翌朝、私が読んでいいのかと問うと、「読んでほしいから置いていたんじゃん。」と。その後も時々ノートは置いてありました。

Bさん：正社員としての就職が決まった後、本人の意向で採用は取り消しに。「仕事が決まっ

て、お世話になったピピオの大人たちが喜んでくれているのに、ほんとはそこには行きたくないとは言えなくなつて。」と、硬い表情で。

Cさん：待ち望んでいたはずの退居前夜に不安定になり、暴言を吐き、大泣き。落ち着いてから「ここを出てからのことが急に不安になって、どうしていいかわからなくなったんよ。」と、また涙。翌朝は、笑顔で退居。

Cさん：ティータイムの時、自分の推しについて語り続け、ボランティアさんと私はさっぱり分からないまま耳を傾けるのみ。「語り過ぎた～。大人の人に自分の好きなものの話をこんなに聞いてもらったのは初めて。」と、にっこり。

色々な形で表される子どもたちのつぶやきを、キャッチして、聴くことが、〈子どもアドボカシー〉の始めの第一歩。先ずは、自分の思いを表しても大丈夫と安心してもらえる関係、場作りが大切です。そこから、自分の思いを言葉にし、必要な人に伝えるということにつながっていくのでしょ

う。そういうことをダイレクトに教えてくれた、それぞれの子どもたちに感謝しています。

これからも〈子どもアドボカシー〉についての理解を深め、シェルタースタッフとして何ができるのかを考え、子どもたちと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

ピピオ掲示板

共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました

ひなばと vol. 38でご案内しました2023年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。105件ものご支援を頂戴し、広島県共同募金会を通じて、160万1162円の配分金をいただくことになりました。

今年も新型コロナウイルスの影響により街頭募金を中止するなど募金活動への影響はありましたが、それにもかかわらず、多くの皆様のご協力をいただいております。ピピオの活動に対する大きな期待を感じております。

いただいた配分金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

寄付等のご協力ありがとうございました

高橋様、石田様、広島陵北ロータリークラブ様から寄付金を頂いております。日々の子どもたちの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>